

## トラック6 「お義姉様とご奉仕のお勉強」

「おかえりなさいませ、お義姉様」

「最近たくさん帰ってきて頂けて、僕嬉しいです」

（たまにただのお休みでも帰ってきてくださいますし……）

（その時も僕と『えっち』してくれて……）

「えへ」

（でも長期休暇のほうが嬉しい）

（ずうつつと、お義姉様が居なくなることを考えなくて良いんですもん）

「あつ、も、勿論お義姉様はお家のお仕事とか、お勉強関係で帰ってるって分かってます！」

「分かってるんですけど、えへ……」

「でも、嬉しいです」

「あ、そうだ。この間新しくケーキ屋が出来たんですよ」

「評判も良くて、食べてみたら美味しくて！ お義姉様にも食べてほし、」

「あ」

（買ったやつ、そういえば食べちゃったな……）

（一週間前だったから……、どうせなら保存魔法でもかけておけば良かった）

（失態だな、僕）

「えーと」

「ケーキは、その、食べちゃったんですけど、えと」

「焼き菓子があります！ はい！」

「後でお持ちしますね」

（一緒にお喋りしながら食べようっと）

（ん？）

「お義姉様？」

「今日も、何だか、その、あまり顔色が良くない、と言うか」

「もしかして本日のご帰宅はご療養でしたか!? すぐにメイドをお呼び、」

「あ。違う」

「そうです? なら、安心です、けど」

(じゃあ、もしかして……)

「も、もしかして、その、僕に、あの」

「新しい躰を、とお考えなんじゃないかな、とか……」

「あ! 本当ですか？」

「では僕、本日もお待ちしております」

「はい♡」

---

「お義姉様！」

「今夜も良い月夜ですね。いらっしゃいませです」  
「どうぞいらして下さい」

「今日はどう騒げて頂くんでしょう？」

「はい」

「はい」

「ご奉仕」

(ごほうし)

「ご奉仕」

（すごい、僕に都合良さそうな単語出てきちゃったなあ……）

「一体、どのようにすれば……？」

「あ」

「はい」

「待ちます」

「ん、んん」

「また何か見てる……」

「はい、は……え？」

「ワタシヲ キモチヨク シテ」

「気持ち、良く……」

「それは、その、……えっちな、意味で、ですか？」

「エッチナイミデ！」

（本気で!?)

「わか、りました」

「僕が、その、好きにして、良いん……?」

「エッ」

「ア」

「オ、オネエサマガ！ キモチイイッテ イッタコトヲ スル!？」  
（僕もしかして夢でも見てる!?)

「お伝え頂ける……」

「そ、そう、ですか」

（こ、これが、現実か……すごい……）

「い、いえ。頑張ります……」

「自らハードルを上げた……。なんて新しい」

「まず、何をすればいいですか？」

「はい」

「あ」

「はい」

「待ちます」

（あ。……検索、始めちゃった）

（うーん）

（すごく難しい顔してるなあ……）

「もしかしくてもお義姉様、性知識あまりないのでは」

「あ、決まりましたか？」

「はい」

「きす」

「キス、を、する」

「きすを」

（きす……？ こいびと、みたいにな？）

（え……？ 都合が、良すぎ、……まって）

（しんこぎゅう、しよう）

（うん）

「っすううう」



「はい。します」

「目、瞑って下さい」

「は、あ、ン……、ちゅ、ちゅ」

「ど、どう、ですか？」

「そうですか」

「じゃあ、もうちよつと」

「ン」

「ちゅ、ちゅ……ちゅう、ちゅ」

「気持ちいいですか？」

「えへ。良かったです」

「お義姉様、顔真っ赤で、体温も熱くなって、大変そうですね」

「ちゅ、ちゅ、……ちゅう」

「僕、お義姉様に気持ちよくなって貰うためにやってみたいことあるんですけど」  
「良いですか？」

「ん」

「よ、しょと」

「お義姉様、お耳をぺろぺろされるの好きじゃ、ないですか？」  
「こうやって」

「気持ち、良いですか？」

（気持ち、良いですね？）

「教えて下さい」

「えへ」

「良かったです」

「では、引き続きご奉仕、致しますね」  
「ちゅ」

「おねーさま、えっちなお声出てます」

「奥、グリグリされるのが好きですか？」

「教えて下さる日なんでしょう？ お教え下さい」  
「ちゅ」

「こえ、れふか？ こお？」

「きもちいい？」  
「ちゅ」

「んふ」

「そうですか」

「じゃあ、こっちもご奉仕、しますね」

「はー、んむっ」

「こっちも、きもちーれふ？」

「ちゅ」

「えへ、好きれふか。うれひーれふ」

「おねーさま、あえぎごえ、えっち」

「ちゅ」

「ン、ん。イっはってくらはい」

「ン、っ、ん、んー……」

「ふぁ」

「どうでしたか？ 僕、ご奉仕できてました？」

（たくさん、たくさん、僕で気持ちよくなってもらえました？）

「えへ」

「本当ですか？ 良かったです」

「僕、また新しいことを知れて嬉し」

（あ、待って。これ『騃』だったな。……嬉しい、とか、言っただい、）

「いです」

（じょうぶそう。うん）

（お義姉様、放心してるし。何も考えられなさそうだからセーフ）

「えへー」

「んー」

（もうちょつとえっちなことで出来ないかなー……）

（……うん、駄目かな。疲労困憊って感じだもん）

「お義姉様、今日はこちらで眠って行けます？」

「くったりして、お疲れのようですし……」

「寝巻きですし、使用人への連絡は僕しておきますから」

「こちらで寝ましょう？」

「僕、えとほら。あー」

（言い訳しよう。何か、いい感じの言い訳……）

「ご奉仕した後のお義姉様をお一人にするの、駄目かな、とか思いますし」

「ご奉仕のアフターフォロー的な……はい」

「はい」

（悩まれてそうだから、とりあえず頷いておいて……）

「はい！」

「ちゃんと僕、奉仕の何たるかを学び、ショックを受けました！ 大丈夫です！」

「はい」

（やった！ 納得してくれそう！）

「はい♡」

（やったー！ お泊り決定ー！）

「じゃあ僕、添い寝させて頂きますね！」

「お義姉様も慣れないご奉仕の躰を僕にして下さって、疲れてしまわれましたよね」  
「寝て、起きたら焼き菓子食べましょう？」

「んちゅ」

「えへ」

「ご奉仕と言え、寝る前はキスかなって」

（ソースとかはないけど。僕がしたいだけだ）

「はい」

「ちゅ、ちゅ、ちゅ」

「えへ」

「おやすみなさい」